

滝小だより



2026年(令和8年)

『ひびきあう ことば・こころ・こうどう』

○ことば:「よく考える子」

○こころ:「思いやりのある子」

○こうどう:「ねばり強い子」



一人ひとりの声に寄り添い、共に歩む学校づくりを目指して

日ごとに暖かさを増し、ようやく春の気配が感じられる季節となりました。桃の節句を過ぎ、庭先のつぼみもほころび始めるなど、そこかしこに春の訪れを感じております。

さて、今年度も残すところあとわずかとなりました。本校では、教育活動を通じて「知・徳・体」のバランスが取れた子どもの育成を目指しております。また、具体的に「よく考える子」「思いやりのある子」「ねばり強い子」の3つの姿を掲げ、全教職員が一丸となって教育活動に邁進してまいりました。学校評価の結果によりますと、児童は安心感や人間関係、学校肯定感が非常に高く、保護者の皆様からの信頼度も中間評価に比べて上昇傾向にあります。教職員におきましても、組織的な取り組みや研究体制が大きく前進いたしました。一方で、課題も明確になりました。児童自身は「ねばり強さ」や「主体的に考え行動する力」を肯定的に捉えていますが、保護者・教職員の視点ではまだ改善の余地があるという評価になっており、意識の差が見られます。また、全体として高い評価をいただいている一方で、個別の状況に目を向ければ、十分にご満足いただけていない方々がいらっしゃることも事実です。学校としましては、こうしたお一人おひとりの声に真摯に耳を傾け、対話を重ねながら、思いを共有して歩んでまいりたいと考えております。この一年、皆様から寄せられた温かいご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。



お知らせとお願い

◆年度末、年度始めの予定について

- 3月19日(木) 卒業式・・・1年生から5年生は登校しません
- 3月25日(水) 修了式、離任式
- 3月26日(木)～4月5日(日) 春休み
- 4月6日(月) 始業式、着任式、入学式
- 4月7日(火) 3時間授業
- 4月8日(水) 3時間授業
- 4月9日(木) 給食開始、4時間授業
- 4月10日(金) 5時間授業
- 4月14日(火) 1年生懇談会
- 4月15日(水) 5組懇談会
- 4月16日(木) 2年生授業参観・懇談会
- 4月17日(金) 3年生授業参観・懇談会
- 4月20日(月) 1年生給食開始
- 4月21日(火) 4年生授業参観・懇談会
- 4月23日(木) 5年生授業参観・懇談会、6年生全国学力学習状況調査
- 4月24日(金) 6年生授業参観・懇談会
- 4月28日(火) 4時間授業

現在時点での予定です。

早めに知らせて欲しいというお声が多いため、仮でお知らせします。しかし、来年度にならないとわからない出張や、市や県の事業などがあるため、授業参観・懇談会の日にちを変更せざるを得ない状況になる可能性がありますことをご了承ください。正式発表は4月です。



学校評価について

令和7年度年度末結果

		A	B	C	D	
児童用	1	学校教育目標(よく考える子・思いやりのある子・ねばり強い子)をいつも意識している。	26	59	13	2
	2	勉強でも生活でも、自分で考えて行動している。	37	52	10	1
	3	誰にでも優しく、思いやりの気持ちを持って行動している。	41	51	7	1
	4	何ごとにもねばり強く取り組んでいる。	41	44	13	2
	5	笑顔で過ごすことができている。	55	30	12	3
	6	友だちや先生、家や地域の人に見える限りあいさつをしている。	52	36	9	3
	7	学校での学習に楽しく取り組むことができている。	50	38	10	3
	8	学習の内容をだいたい理解できている。	43	44	12	1
	9	学校のきまりをみんなが守って、仲よく楽しく生活できている。	37	47	12	3
	10	何でも話したり、困った時に話を聞いてくれる友だちがいる。	70	20	8	2
	11	学校に、困ったことを相談することができる先生がいる。	48	30	15	8
	12	学校での出来事を家族によく話している。	53	28	14	4

人間関係や安心感は非常に良好であることは、問10でA評価が中間の65から70に上昇していることや、問3の肯定的評価が高いことから読み取れます。また、学校生活に対する肯定感が高いことは、問5・問7の評価がそれぞれ高いことから確認できます。「楽しい」「安心」といった感覚は高い一方で、努力の継続や自己調整力については、今後の育成課題であると考えられます。

保護者用	1	学校は教育目標や方針、子どもの様子などをわかりやすく保護者に伝えている。	43	49	9	0
	2	子どもは、いろいろな場面でよく考えて行動することができている。	37	54	8	1
	3	子どもは、誰にでも優しく、思いやりの気持ちをもって行動している。	41	57	3	0
	4	子どもは、何ごとにもねばり強く取り組むことができている。	32	46	18	4
	5	子どもは、楽しく学校に通っている。	62	30	5	3
	6	子どもは、進んであいさつをしている。	27	54	15	4
	7	学校は、子どもが主体的に学ぶ授業づくりに努めている。	40	49	11	0
	8	子どもの学習状況を把握している。	34	48	18	1
	9	学校は、子どもの防犯・安全のための取り組みをしっかり行っている。	34	46	19	1
	10	子どもは、教職員に話をよく聞いてもらっている。	38	51	10	1
	11	学校は、保護者や子どもが困ったことや悩みを相談しやすくなっている。	38	40	19	4
	12	子どもから学校の様子を聞いている。	44	44	11	1

学校への信頼感が向上したことは、A評価が問1で5ポイント、問7で6ポイント増加したことから読み取れます。学校生活の安心感の高さは、問5の評価が高いことから確認できます。一方で、「粘り強さ」や「あいさつ」については、否定的評価が依然として高く、子どもの行動面の定着と保護者の実感とのズレが見られます。

教職員用	1	学校は、学校教育目標を意識しPDCAサイクルで教育活動に組織的に取り組んでいる。	30	70	0	0
	2	児童は、学習や生活の場面で、自分で考えて行動することができている。	10	70	20	0
	3	児童は、互いに認め合い、思いやりのある行動をすることができている。	20	70	10	0
	4	児童は、何事にもねばり強く取り組むことができている。	20	70	10	0
	5	月毎の校内研究を自身の授業力向上に生かしている。	44	56	0	0
	6	学校は、教師が健康でいられるような体制づくりに努めている。	40	60	0	0
	7	学校は、学級経営や学習指導がしやすい設備を整えている。	40	50	10	0
	8	学校は、児童支援・指導について学年や児童支援担当、管理職に相談できる体制ができている。	50	50	0	0
	9	学校は、児童や保護者が悩み事を相談しやすい環境をつくっている。	30	70	0	0
	10	学校は、子どもの防犯・安全のための取り組みをしっかり行っている。	40	40	20	0
	11	学校は、家庭との連携に努めている。	50	40	10	0
	12	学校は、全職員間で同僚性が発揮されている。	20	80	0	0

校内研究については、問5でA評価が中間の5から44に上昇していることから読み取れます。また、相談体制・同僚性については、問8・9・12の肯定的評価が100%であることから良好なことが分かります。一方で、児童の主体性や粘り強さの評価は依然厳しいことから、児童の力の伸びについては、より客観的・厳密に見ていると考えています。

○ 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）の皆様より

☆ぱっと見た感じ、概ねよい回答です。先生たち自身の回答も向上しています。ただ、保護者も先生たちも「ねばり強い子」に対する評価は厳しいですね。

☆保護者が学校に係わる素地を育てるには小学校がチャンスです。中学校では働く人が増えてしまいます。学校公開日を設定したり、ボランティア登録制度をつくったりしてはどうですか。より学校のことが見えてくるのではないのでしょうか。

☆児童支援担当がよく機能していることが数字からもよく分かります。

☆登下校の見守りについて、朝は忙しくても帰りはできる人がいると思いますので、保護者による組織づくりができるのではないのでしょうか。また、子どもたちの感覚は「知らない人は全員不審者」ですから、どこまでその感覚を信用してよいのか判断が難しいですね。

学校関係者評価委員、ならびにアンケートにご協力くださった保護者の皆様、ありがとうございました。皆様のご意見を参考に、教職員一同でよりよい滝の沢小学校を目指して今後も取り組んで参ります。



学校の様子

◆ 「地域のめぐみ地産地消マルシェ」を開催しました（6年生）

本イベントは、6年生が「総合的な学習の時間」における地産地消の探究活動を経て、地域活性化の策として企画したマルシェです。開催に至るまでには、関係者への協力依頼や運営体制の構築、集客活動など、多大な準備を要しました。「総合的な学習の時間」は一言でまとめると「学んだ知識を道具として使いこなし、自らの意志で未来を切り拓く力を養う時間」です。今回のマルシェの例で言えば、ただ「物を売る」という知識を得るだけでなく、「どうすれば地域がつながるのか」という正解のない問いに対して、自分たちの力で行動したこと自体が、この学習の最大の意義となります。私たちはマルシェの開催を最終目的としていません。活動を通じて児童が地域社会の一員としての自覚を持ち、将来にわたって地域へ貢献しようとする意欲を育むことこそが真の目的です。学校運営協議会においても、地域参画の意識を子どもたちと共に長期的視点で醸成していく重要性を話された委員がおりました。本活動が、学校と地域の連携を深める契機となることを願っています。なお、当日は340人程度の来校者があり、大盛況のうちにマルシェを終えることができました。



↑ 後方の掲示物は慶応大学へ訪問した際にワークショップで作成した作品

児童支援担当教諭より

各学年の授業参観が無事に終了いたしました。今回は、全学年の様子を見ることができましたが、どの学年でもこの1年間の成長が感じられる、素敵な時間となっていました。4月に進級する子どもたちの姿が今から楽しみです。私自身、今年度は「児童支援担当」という新しい立場でのスタートでした。正直、戸惑うことや自分の力不足を痛感することもありましたが、そんな時に支えになったのは、保護者の皆様との連携でした。この1年で強く感じたのは、「学校と家庭が手を取り合ってお子様を支えること」の何よりの心強さです。皆様の温かなご理解があったからこそ、子どもたちは安心して前を向くことができたのだと実感しています。来年度も、子どもたちが安心して楽しく過ごせる場となるよう努めてまいります。1年間、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

